本邦現行

# 法令摘要

阪根正夫編輯

上乙

CZ
5
0157

東京圖書館

| | |
|---|---|
| 新門 | 四七函 |
| 一〇部 | 三 架 |
| 類 | 號 |

酒井彪三編輯

# 大日本一統輿地分國圖

貳十三方分一縮尺 銅刻縮圖

全部八十一枚

附ノ府縣五港ノ圖

○東海道 十二枚　○畿内 三枚　○東山道 十三枚
○北海道 十四枚　○北陸道 五枚　○山陰道 七枚
○山陽道 八枚　○南海道 六枚　○西海道 九枚
○琉球 三枚　○大日本全圖 壹枚

此圖ハ故人伊能先生全國測量基線ヨリ国境郡界及ビ山岳河渠道路ノ位置ヲ正ニシ羅新雨來諸藩各縣ノ地圖ヲ集メ時習義塾ニ於テ地學ノ先生ヲ會シ泰西ノ畫法ヲ以テ一国一葉ニ仰ク俯ク都府名邑ノ圖ヲ舉ケ支号ヲ至ラサレ漏サルモノ無シ編集セシ其要領ヲ得タリ我邦地圖ハ在ラサル世ノ諸彦地理ヲ明ラカニセントス欲ス請求愛觀有ル事ヲ請ム

江戸日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛 板白

CZ
5
0157

東京圖書館藏



## 賣藥規則別冊之通相定候條此旨布告候事

朕惟ヘラク今内外多事ノ秋ニ際シ斷然其措置ヲ得天下億兆ヲシテ其方向ヲ定メシムルニ非レハ安ソ能ク宇内各國ト並立シテソノ

### 賣藥規則

#### 第一章

第一條　此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥散藥煎藥等家方ヲ以テ合劑シ販賣スルモノヲ云フ

第二條　此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ヲ經由シテ内務省ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條　内務省ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サヽルヘシ

我國威ヲ皇張セニヤ是朕カ宵肝憂慮スル所ナリ

第四條　第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

最ニ汝等各建議スル所互ニ異同アリト雖モ之ヲ要スルニ深ク從前ノ弊害ヲ鑑レ遠ク將来猷謀ヲ畫ス是汝等カ衷誠ノ所致

第五條　賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許可ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持スル官許公文ノ寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

朕之ヲ嘉ミシ將ニ施設スル所アラントス汝等更ニ能朕カ意ヲ體シ各其所見ヲ竭セヨ

第六條　賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

○

第八條　營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條　第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條　免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有毒品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗悪ニスル等ノアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルアルヘシ





第十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第二十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第三十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第四十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第五十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第六十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第七十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第八十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第九十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百十九條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十一條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十二條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十三條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十五條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十六條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サンメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之レヲ所持スヘシ

第百二十八條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ

坐スル處ノ列聖ノ皇灵ヲ禁中ニ奉安スルヲ謂ス其文ニ曰朕恭ク惟ル天祖威灵ノ遇ル所歴世聖享ノ奉シテ以テ天職ヲ治メ玉フ所ノ者ナリ今ヤ朕不逮ヲ以テ復古ノ運ニ際シ恭ク鴻緒ヲ承ク新ニ神殿ヲ造リ神器ト列聖皇灵トヲコヽニ奉安シ仰テ以テ萬機ノ政ヲ視ント欲ス爾群卿百僚其レ斯旨ヲ體セヨ

○

第十條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽ時ハ其請賣者及賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條　諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其子細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條　免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ免許鑑札ヲ改ムルニ及ハスト雖ヒ其由ヲ届出ツヘシ

第十五條　賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタル時ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ



## 第二章

第十六條　賣藥營業者ハ左ハ通稅金並鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅　藥劑一方ニ付一ヶ年　金貳圓

右鑑札料　藥劑一方ニ付一枚　金廿錢

第十七條　水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條　稅金ハ毎年兩度區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條　稅金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ

辛未十月廿二日本日ヨリ廿四日ニ至ル華族旧藩知事ヲ小御所ニ召シ其責重ノ地位ニ居リ人民ノ望ヲ負荷セハ衆ニ先シテ奮励シ或ハ海外ニ留學シテ開明ノ域ニ進メ富強ノ基ヲ立ツヘキヲ親諭シ宴ヲ賜フ其勅ニ曰

朕惟フニ宇内列國開化富強ノ稱アル者皆其國民勤勉ノ力ニ由ラサルナシ而シテ國民ノ能ク智ヲ開キ才ヲ研キ勤勉ノ力ヲ致ス者ハ固ヨリ其國民タル

半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有毒品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

## 第三章

第廿條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付金五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第廿一條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第廿二條　免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ衒惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第廿三條　無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第廿四條　諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

ノ本分ヲ盡スモノナリ

第廿五條　私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

今我國舊制ヲ更革シテ列國ト并馳セント欲ス國民一致勤勉ノ力ヲ盡スニ非レハ何ヲ以テ之ヲ致スヿヲ得ンヤ特ニ華族ハ國民中貴重ノ地位ニ居リ衆庶ノ屬目ス

第廿六條　以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

## 〔正〕煙草稅則ノ事

### 第一則〔煙草營業稅〕

第一條　煙草賣買營業ノ者ハ其管廳ヘ申出營業鑑札ヲ受ケ年々左ノ通稅納可致事

但煙草耕作人ニシテ自作ノ烟草ヲ賣渡スヿニテ煙草ヲ請賣セサル者并ニ葉煙草ノ儘取扱ヒ候者ハ此



ル所ナレハ其履行固ヨリ標準トナリ一層勤勉ノ力ヲ致シ率先シテ之ヲ鼓舞セサルヘケンヤ其責タルヤ亦重シ是今日朕カ汝等ヲ召シ親ク朕カ期望スル所ノ意ヲ告クル所以

限ニ非ス

煙草卸賣營業稅　一ケ年　金拾圓

煙草小賣營業稅　一ケ年　金五圓

但卸賣トハ煙草商人ヘ賣渡スヿヲイフ又小賣トハ自用自己所用ニ供シ賣用ニ致サヽル人ニ賣渡スヿヲ云フ

第二條　卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札願受ルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

第三條　最初營業鑑札下渡候節爲手數料金貳拾錢相納ヘキ事

第四條　營業鑑札ヲ受タル烟草商人ヘハ仕入鑑札其管

ナリ夫レ勧勉ノカヲ致スハ智ヲ開キ才ヲ研ヨリ外ナルハナシ智ヲ開キ才ヲ研ハ眼ヲ宇内開化ノ形勢ニ着ケ有用ノ業ヲ修メ或ハ外國ヘ留学シ實地ノ学ヲ講スルヨリ要ナルハナシ而年壮ヲ過キ留学ヲ為シ難キ者モ一タヒ海外ニ周遊シ聞見ヲ廣ムル亦以テ智識ヲ増益スルニ足ラン且我邦女学制未タ立タサルヲ以テ婦女多クハ事理ヲ解セス殊ニ幼童ノ成立ハ母氏ノ

廳ヨリ相渡候條煙草買入ノ節ハ必ス相携ヘ可申右鑑札料ハ一枚ニ付拾錢宛相納ムヘキ事

但仕入鑑札ハ一户一枚ニ限リ候儀ニ無之素ヨリ買入ノ節必携ノ品ニ付何枚ニテモ入用丈ケ願ニ依テ相渡ヘキ事

第五條　營業税收納ノ儀ハ年々両度ニ區別シ半ケ年分宛區戸長ヘ取集ノ其管廳ヘ可相納事

但其年前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限其管廳ヘ可相納事

第六條　新規營業免許ノ者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分營業免許ノ節直ニ營業税相納廃業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税可致事

但廃業ノ者ハ其節直ニ營業鑑札仕入鑑札共返納スヘシ

第七條　營業鑑札若シ水火盗難過誤等ニテ失却候節ハ其旨管廳ヘ届出新規鑑札可申受事

但手數料金貳拾錢相納ムヘキ事

第八條　營業鑑札仕入鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳ヘ申立候得ハ鑑札引換相渡スヘク尤モ前條手數料貳拾錢可相納事

第九條　卸賣營業ノ者ハ烟草卸賣所ト書記シ又小賣營業ノ者ハ烟草小賣所ト書記シタル看板ヘ免許鑑札ノ番號書加ヘ戸外ニ掲クヘキ事

但卸賣小賣ヲ兼候者ハ烟草卸小賣所ト書記シ看板

教導ニ関シ實ニ切緊ノ事ナレハ今海外ニ赴ク者妻女或ハ姉妹ヲ挈テ同行スル固ヨリ可ナルニテ外國所在女教ノ素アルヲ曉リ育児ノ法ヲモ知ルニ足ルヘシ誠ニ能ク人々此ニ注意シ勧勉ノ力ヲ致サハ開化ノ域ニ進ミ富强ノ基隨テ立列國ニ并馳スルニ難カラサルヘシ汝等能ク斯意ヲ體シ各其本分ヲ盡シ以テ朕カ期望スル所ヲ副ヘヨ

○

歐米發遣

掲クヘキ事

第十條　營業鑑札ヲ受ケタル烟草商人ヘハ出賣ノ爲メ願ヒニ任セ出賣鑑札其管廳ヨリ相渡候條出賣ノ節ハ必ス相携ヘ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢宛相納ムヘシ尤右營業商人一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡事

但遺失其外改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡候條手數料トシテ更ニ金拾錢相納ムヘシ

第二則　製造烟草印税

第一條　製造烟草ハ(玉作箱詰紙包束作疊ノ紙等)各種ノ大小斤目ニ不拘自用ノ人ヘ賣渡ス節ハ總テ其代價ニ從ヒ烟草印紙貼用ノ上賣出スヘキ事

但葉烟草ハ總テ印紙相用ユルニ及ハサル事

第二條　製造煙草印紙種類并定價左ノ通候事

長印紙　(廿五切仝紙一枚)　定價貳錢五厘　印紙仝五厘

印紙　仝　壹錢　印紙　仝　五錢　印紙仝拾錢

第三條　製造煙草印税割合左ノ通リ

烟艸代價五錢未満　印税壹厘　但長印紙　仝五錢以上拾錢未満　印税　五厘　仝拾錢以上廿錢未満　印税　壹錢　仝廿錢以上世錢未満　印税　貳錢　仝世錢以上七十錢未満　印税　三錢

右以上總テ之ニ準シ印税增加スヘシ

第四條　煙草印紙貼用方略圖ノ如ク賣主ニ於テ印紙貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニカケ實印或ハ仕切印ヲ押スヘシ

ノ特命全權大使等ヘ

詔書

辛未十一月四日歐米發遣ノ特命全權大使右大臣岩倉具視副使參議木戸準一郎大藏卿大久保一藏工部大輔伊藤博文外務少輔山口尚芳ヲ召

第五條　煙艸印紙ハ烟草印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印アル看板ヲ掲ル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第六條　仕入鑑札所持ノ煙艸商人ヘ賣渡ス製造烟草ニ限リ印紙貼用ニ及ハス其仕入鑑札ヲ證トシテ賣渡スヘシ尤鑑札所持不致者ヘハ無印紙ノ製造煙草決テ賣渡不相成候事

## 第三則　賞罰例

第一條　卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致シ候者ハ一ケ年營業稅ノ七倍科料申付ヘキ事

第二條　卸賣營業鑑札借受ケ營業致候者ハ前條同樣ノ科料可申付貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ五倍科料申付ヘキ事

第三條　小賣營業鑑札ヲ受ケス營業致シ候者ハ一ケ年營業稅ノ五倍科料申付可キ事

第四條　小賣營業鑑札ヲ借受ケ營業致シ候者ハ前條同樣ノ科料可申付貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ三倍科料可申付事

第五條　仕入鑑札所持致サスノ無印紙製造烟艸ヲ買受ケ候歟又ハ右所持致サヽル者ヘ無印紙製造煙草ヲ賣渡スモノハ各脫稅高ノ廿倍宛科料可申付事

第六條　仕入鑑札借受候者并ニ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛科料可申付事

第七條　烟草印紙ヲ用ユヘキ製造烟艸ニ印紙ヲ貼用セシテ國書ヲ捧ケ勅語ヲ賜フ正使副使ヘ勅語今般汝等ヲ使トシテ海外各國ヘ赴カシム朕素ヨリ汝等ノ能ク其職ヲ盡シ使命ニ堪ユヘキヲ知ル依テ今國書ヲ付ス其レ能

ク
朕カ意ヲ體シテ努力セヨ

ス自用ノ人エ賣出ス者ハ脫稅高ノ廿倍科料申付ヘキ事

第八條　煙草印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ脫稅高ノ十倍科料申付ヘキ事

第九條　官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ烟草印紙賣捌致候者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買者ハ其品取上ケ印紙代ノ五拾倍科料申付可キ事

朕今ヨリシテ汝等ノ無恙歸朝ノ日ヲ祝セン丁ヲ俟ツ遠洋千萬自重セヨ

第十條　一旦相用タル烟艸印紙ヲ剝取リ再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ科料可申付事

理事官以下隨從ノ官吏ヘ

第十一條　煙草印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ科料可申付事

勅語

今般汝等ヲ海外各國ニ赴カシム朕汝等カ能ク其職ヲ奉シ其任ニ堪ユベキヲ知ル黽勉事ニ從フヲ望ム遠洋渡航千萬自重セヨ

○

第十二條　前數條ニ掲ル處ノ犯則人ヲ見屆ケ訴出者アル時ハ事實取糺ノ上無相違ニ於テハ其賞トノ其科料金ノ半高相與候事

第十三條　出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受ケ并貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セズシテ出賣ヲ爲ス者ハ鑑札料廿倍ノ科料可申付事

〔丈〕造船場整備ノ勅書

辛未十一月廿一日前日

〔丈〕度量衡改定ノ事

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

別紙

度量衡改定規則

車駕横須賀ニ幸ス本日造船場ヲ巡覽シ其整備ヲ嘉賞ス

勅語ニ曰造船ノ諸場能ク整備美ニ其基業ヲ創立ス朕今巡覽不堪悦喜是偏ニ汝始ノ勉力ニ依ル朕深ク之ヲ嘉賞ス

第一條

三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ枡坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條

各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所ヘ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヿヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入リ用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

○軍律撰輯ノ上諭

壬申三月四日軍律ヲ頒布シ軍人軍屬ノ罪ヲ犯ス者此律ニ因テ處斷セシム其上諭ニ曰

朕惟フニ兵民途ヲ分チ寛猛治ヲ異ニス其律ヲ定メ法ヲ設

第三條

製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枡ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條

尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枡ノ縁鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條

舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ枡ノ縁鉄弦鉄等ヲ取離シ古鐵トシテ

クルニ於テ豈ニ斟酌商量以テ其宜ヲ制セサル可ンヤ須者海陸軍律撰輯竣ヲ告ク朕之ヲ閲スルニ損益要ヲ得軽重度ニ合セリ依テ須布シ有司ヲシテ遵守シ軍人ヲシテ懲誡フル處アラシ

賣買スルハ苦シカラス

第六條　第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

## (力)　酒造税則ノ事

今般酒造税則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ従前ノ酒類税則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

### 酒造税則

### 第一章　免許鑑札　税率

第一條　凡ソ酒類ヲ製造シテ営業セント欲スル者ハ其上官管廳ニ願出酒造場一個所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ総テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類釀造酒(清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ)

二類蒸溜酒(焼酎其他蒸溜シタルモノヲ云フ)

三類再製酒(銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ)

第三條　免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

(酒造免許税)酒造場一個所ニ付金三拾圓

(酒類造石税)一類一石ニ付金貳圓

二類一石ニ付金三圓　三類一石ニ付金四圓

第四條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

ム

明治四年辛未八月廿八日

(巳)琉球王等表文及ヒ勅語

壬申九月十四日琉球王尚泰ノ使臣参朝シ表ヲ奉リ方物ヲ獻ス王及ヒ使臣ニ勅語ヲ賜ヒ

更ニ尚泰ヲ封シテ藩王トナシ華族ニ列ス其表文勅語等ヲ左ニ掲ク

琉球王表文

恭惟皇上登極以來乾綱始張庶政一新黎庶皇恩ニ浴シ歡欣鼓舞セサルナシ尚泰南隅ニ在テ伏シテ盛事ヲ聞キ雀躍ノ至リニ勝ヘス今正使尚健副使向有恒贊議宮向維新ヲ遣シ謹シテ朝賀ノ禮ヲ修メ且方物ヲ貢ス伏メ奏聞ヲ請フ

明治五年壬申七月十九日琉球尚泰

第五條　免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出スヘシ右期日ヲ過クレハ免許セサルモノトス

第六條　免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章　納稅　造石檢査

第八條　免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條　造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期四月二十日限十月一日ヨリ三月三十一日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期七月三十一日限四月一日ヨリ六月三十日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期九月三十日限七月一日ヨリ皆造檢査濟石數ニ係ル稅額並前納額ノ殘數

第十條　造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ

第十一條　前条ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條　自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條　檢査未濟ノ酒類ヘ檢査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條　檢査濟ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル

ノ奏
恭惟
皇后位ヲ中宮ニ正シ德至尊ニ配シ天下ノ母儀トナリ四海日ニ文明ノ域ニ進ミ黎庶生ヲ樂ミ業ニ安ス尚泰海陬ニ在リ伏シテ盛事ヲ聞キ懽抃ノ至リニ勝ヘス今

類スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條　檢査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハノ檢査濟ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ檢査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢査ヲ受クヘシ

第十六條　皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ

第十七條　前条檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

正使尚健副使向有恒贊議官向維新ヲ遣シ謹ンテ慶賀ノ禮ヲ修ノ且方物ヲ貢ス伏シテ奏聞ヲ請フ
明治五年壬申七月十九日琉球尚泰謹奏
勅語
琉球ノ薩摩ニ附庸タル

第十八條　葡萄酒及麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖ヒ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條　酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もと其他仕込米及營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ヲ受クヘシ

第廿條　酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申出其容量ノ檢査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳ヘ届出スヘシ

## 第三章　禁令　雜令

第廿一條　酢及酒もとヲ販賣スルヲ許サス

第廿二條　都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第廿三條　檢査未濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消

任ス　シ今維新ノ際ニ會シ上表且方物ヲ獻ス忠誠無二朕之ヲ嘉納ス

使臣ヘ勅語

汝等入朝シ能ク汝ノ主ノ意ヲ奉シテ失フヿシ自ラ方物ヲ獻ス深ク嘉納ス

琉球王冊封ノ詔

朕上天ノ景命ニ膺リ万世一系ノ帝祚ヲ紹キ奄ニ四海ヲ有チ八荒ニ君臨ス今琉球近ク南服ニ在リ氣類相同ク言文殊ナル無ク世々薩摩ノ附庸タリ而シ

第廿四條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第廿五條　造酒搾リ蒸溜器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第廿六條　免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第廿七條　酒造ニ属スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ増減ハ其時々届出ヘシ

第廿八條　一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番号ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第四章　罰令

第廿九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及製造諸器械トモ没收シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條　免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第廿九条ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタルモノハ其鑑札ヲ取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第卅一條　造酒石數ノ檢査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ

萬笈閣藏

テ爾尚泰能ク勤誠ヲ致ス宜ク頭爵ヲ子ヲヘシ陞シテ琉球藩王ト為シ叙ノ華族ニ列ス次ニ爾尚泰其レ藩屏ノ任ヲ重シ衆庶ノ上ニ立チ切ニ朕カ意ヲ體シテ永ク皇室ニ輔タレ欽ヨ哉

其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第廿三條　檢査ノ際酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類（もともろみ）ノ類ト雖モ隱蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第廿三條　檢査未濟ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第廿四條　前条々ニ明記スルモノヽ外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ一圓ヨリ少ナカラズ二拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

使臣奉答
臣健等謹白ス臣寡君ノ命ヲ奉シ天朝ニ入貢ス今聖恩寡君ヲ封シテ藩王トナシ且華族ニ班セシム聖恩重渥恐感ノ至ニ勝ヘス臣健等代テ詔命ノ辱ヲ拝ス

附則

一酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一ケ年一石（各種製造スルトキハ其總數ヲ合算ス）ニ起ユヘカラス若シ一石ヲ起ルトキハ總テ本則ニ従フヘシ

（キ）醪麴營業税則ノ事

醪麴營業税則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行條条此旨布告候事

醪麴營業税則

第一章　免許鑑札　營業税

第一條　凡ソ醪麴（醸造酒類ノもと）ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許

三使連名

○

宴ヲ賜フ

勅語

壬申九月二十九日天長節ナルヲ以テ親王以下奏任以上ノ官員華族及ヒ琉球使臣等参賀ス羣臣ニ酺宴ヲ賜ヒ舞樂ヲ奏ス

鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醫麹營業稅金五十圓

第二條　營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條　販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條　免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條　免許ヲ受ケタル者ハ醫麹賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番号ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章　禁令　罰令

第九條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條　免許鑑札ヲ受ケス醫麹ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條　前明条ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額

勅語アリ太政大臣三條實美奏任以上ノ總代トシテ奉答シ華族從一位中山忠能華族總代トシテ奉答ス其勅語奉答如左

勅語

茲ニ朕カ誕辰ニ方リ群臣ヲ會同シ酺宴

ヲ張リ舞樂ヲ奏セシム
汝群臣
朕カ偕ニ樂シム ノ意ヲ體シ其レ能ク歡ヲ盡セヨ
太政大臣及ヒ中山忠能奉答
茲ニ天長ノ佳節ニ方リ陛下群臣ヲ會同シ酺宴ヲ賜ヒ舞樂ヲ徵スヘシ

〔ク〕 製造煙艸ノ事

一 製造煙草ノ儀ハ自用ノ人ヘ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ可置尤臨時官員派出調査候儀可有之事

一 證券印稅規則中賣買品ニ關スル證書類ハ諸帳簿調査ノ振合ニ準シ官員巡回調査候儀可有之事

○第四編

〔ア〕 教育令ノ事　教育令

第一條　全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督ヲ奏セシメ特ニ辱クモ偕樂ノ寵命ヲ拜ス群臣感喜ノ至ニ勝ヘス豈ニ歡ヲ盡クシ樂ミヲ極メサルヘケシヤ乃チ恭ク陛下ノ聖誕ヲ祝シ萬壽無疆ヲ祈リ奉ル

○

第二條　學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校農學校商業學校職工學校其他各種ノ學校トス

第三條　小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所ニシテ其學科ヲ修身讀書習字算術地理歷史等ノ初步トス土地ノ情況ニ隨ヒテ罫畫唱歌體操等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲ニハ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ

但已ムヲ得サル場合ニ於テハ修身讀書習字算術地理歷史ノ中地理歷史ヲ減スルコトヲ得

第四條　中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條　大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授

至鉄道開業式
勅語
壬申九月十二日車駕臨幸シ新橋横濱ノ間鉄道開業式ヲ行フ内外ノ官吏衆庶参賀勅語アリ左ノ如シ
百官ヘノ勅語
今般我國鐵道ノ首線工竣ルヲ告ク朕親ヲ開行シ其便利ヲ欣フ嗚呼汝百官此盛業ヲ百事維新ノ初ニ起シ此鴻利ヲ萬民永享ノ後ニ惠ントス其勵精勉力實ニ嘉尚スヘシ朕我國ノ富盛ヲ期シ百官萬民ノ爲クル所トス

第六條　師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條　專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

第八條　農學校ハ農耕ノ學業ヲ授クル所トス
商業學校ハ商賣ノ學業ヲ授クル所トス
職工學校ハ百工ノ職藝ヲ授クル所トス
以上數條掲クル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

第九條　各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡児童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若クハ數箇ノ小學校ヲ設置スヘシ
但本文小學校ニ代ルヘキ私立小學校アリテ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ

第十條　各町村ハ學務ヲ幹理セシメンカ爲ニ小學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合ノ區域ニ學務委員ヲ置キ戸長ヲ以テ其員ニ加フヘシ
但人員ノ多寡給料旅費職務取扱諸費等ノ有無及其額ハ區町村會之ヲ評決シ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十一條　學務委員ハ町村人民其定員ノ二倍若クハ三倍ヲ薦舉シ府知事縣令其中ニ就テ之ヲ撰任スヘシ
但薦舉ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ

メニ之ヲ祝ス

朕更ニ此業ヲ擴張シ此線ヲシテ全國ニ蔓布セシメンコトヲ庶幾ス

衆庶ヘ勅語

東京横濱間ノ鐵道朕親ク開行ス自今此便利ニヨリ貿易愈繁昌庶民益富盛ニ至ランコトヲ望ム

各國公使等ヘ勅語

我國鐵道ノ首線工竣リ朕親ラ開行スルノ日ニ方リテ列國公使等齊ク來リテ祝意ヲ表セラル朕欣喜ノ至リニ堪ヘサ

第十二條　學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校ノ設置保護等ノ事ヲ掌ルヘシ

第十三條　凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十四條　學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十五條　父母後見人等ハ其學齡兒童ノ小學科三箇年ノ課程ヲ卒ラサル間已ムヲ得サル事故アルニアラサレハ少クトモ毎年十六週日以上就學セシメサルヘカラス又小學科三箇年ノ課程ヲ卒リタル後ト雖モ相當ノ理由アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十六條　小學校ノ學期ハ三箇年以上八箇年以下タルヘク授業日數ハ毎年三十二週日以上タルヘシ

但授業時間ハ一日三時ヨリ少カラス六時ヨリ多カラサルモノトス

第十七條　學齡兒童ヲ學校ニ入レス又巡回授業ニ依ラスシテ別ニ普通教育ヲ授ケントスルモノハ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ

但郡區長ハ兒童ノ學業ヲ其町村ノ小學校ニ於テ試驗セシムヘシ

第十八條　小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シクシテ巡回

ルナリ

朕更ニ庶幾クハ自今中外人民共ニ鴻利ヲ享ケ永ク幸福ヲ保チ公使等ノ祝詞ニ負カサランヿヲ祈ル

横濱居留外國商人ヘ勅語

横濱居留ノ外客ヨリ今奏上セル祝詞ヲ聽キ朕深ク之ヲ嘉納ス凡ソ我帝國ニ住セル人ハ固ヨリ此地ニ產レ出タル者モ假ニ此地ニ寓セル者モ偶然此地ニ來レルモ自ラ好テ航渡セルモ齊シク保護ニ泄レス權義ヲ失セス

授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ児童ニ授ケントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條　學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立學校トス

第二十條　公立學校幼穉園書籍館等ノ設置廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘク其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十一條　私立學校幼穉園書籍館等ノ設置ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條　町村立私立學校幼穉園書籍館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條　小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之ヲ斟酌增減セントシ府知事縣令之ヲ許可セントスルトキハ其意見ヲ付シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十四條　公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係レルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係レルモノハ

康福益昌ニ我國歩ヲシテ文明ニ向ハセント猶斯事業ヲ盛大ニシ既ニ両間ニ存セル和樂ノ交誼ノ永續セル間ハ中外ノ人民ヲシテ洽ネク提撕ノ下ニ在ラシメン

工部省大少丞以上並局長鐵道寮奏任官以上御雇外國人職長等ヘ勅語

汝等殊ニ勉力事ニ從ヒ遂ニ此功ヲ奏ス

朕滿足ノ至ニ堪ヘス且是レ外國ノ職長等熟練ノカニ依ル朕之ヲ嘉賞ス

町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條　町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方税ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十六條　公立學校ノ敷地ハ免税タルヘシ

第二十七條　凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第二十三條　各府縣ハ小學校教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ

第二十四條　公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試驗ノ後卒業證書ヲ與フヘシ

第二十五條　公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フモノアラハ其學業ヲ試驗シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第二十七條　教員ハ男女ノ別ナク年齡十八年以上タルヘシ

但品行不正ナルモノハ教員タルコトヲ得ス

第二十八條　小學校教員ハ官立公立師範學校ノ卒業證書ヲ有スルモノトス

但本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ヨリ教員免許狀ヲ得タルモノハ其府縣ニ於テ教員タルモ妨ケナシ

第二十九條　文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

世天陽曆須行ノ詔書

壬申十一月九日

天皇正院ニ臨御シ大臣参議諸省長官ヲ召シ改曆ノ詔書ヲ大臣ニ賜フ其文ニ曰

朕惟フニ我邦通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ躔度ニ合ス故ニ二三年間必ス閏月ヲ置カサルヲ得ス置閏ノ前後時ニ季候ノ早晚アリ終ニ推歩ノ差ヲ生スルニ至ル殊ニ中下段ニ掲ル所ノ如キハ

第四十條　公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムヿヲ得ス

第四十一條　府知事縣令ハ管内學事ノ實狀ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條　凡學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條　凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ

第四十四條　凡児童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歴タルモノニアラサレハ入學スルコトヲ得ス

第四十五條　傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルコトヲ得ス

第四十六條　凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰歐チ或ハ鞭ヲ加フヘカラス

第四十七條　生徒試驗ノトキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルコトヲ得ヘシ

第四十八條　町村立學校ノ教員ハ學務委員ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第四十九條　町村立小學校教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第五十條　各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學校農學校商業學校職工學校等ヲ設置スヘシ

〔イ〕小學校設置區域ノ事

率ネ妄誕無稽ニ属シ人知ノ開達ヲ妨ルモノ少レトセス蓋シ太陽暦ハ太陽ノ躔度ニ従テ月ヲ立ツ日子多少ノ異アリト雖ドモ季候早晩ノ変ナク四歳毎ニ一日ノ閏ヲ置キ七千年ノ後僅ニ一日ノ差ヲ生スルニ過キス之ヲ太陰暦ニ比スレハ最モ精密ニシテ其便不便モ固リ論フ俟タサルナリ依テ自今旧暦ヲ廃シ太陽暦ヲ用ヒ天下永世之ヲ遵行セシメン百官有司其斯旨ヲ體セ

教育令第九條小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍リ難キ事情アルトキハ別ニ區域ヲ畫スルヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ區域内ニ於テ會議ヲ要スルトキハ區町村會法第八條ニ準據スヘシ

〔ウ立〕天然痘豫防規則ノ事

天然痘豫防規則別紙之通相定候條其方法細目並ニ右ニ関スル資用收集支給等之儀ハ各地方ノ便宜ニ従ヒ精々普及候様可取計此旨布達候事

別紙

天然痘豫防規則

第一條　小児初生七十日ヨリ満一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事故アリテ此規ニ後ルヽモノハ其次第ヲ戸長若クハ衛生委員ニ届クヘシ

但初種ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ

第二條　種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ請ケ取リ置クヘシ

但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ請ケ取リ置クヘシ

第三條　戸長若クハ衛生委員ハ初種ノモノ再三種ノモノ及ヒ事故アリテ種痘スルヿ能ハサルモノ等夫々撿査シ地方廳ニ届ケ出ツヘシ

第五條　送籍ノ時ハ必ス第二條ニ掲クル醫師ノ證書ヲ所持スヘシ

ヨ

○

徵兵ノ詔書

壬申十一月廿八日徵兵令ヲ発シ全國ノ成丁ヨリ之ヲ募ル其詔書ニ曰

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セ

但シ滿二十五年以上ノモノ並天然痘濟ノ證跡アルモノハ此限ニアラス

〔三〕傳染病豫防規則ノ事

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條　此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸窒扶私赤痢實布垤利亞發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

第二條　虎列刺病者ニ用ヒタル卧具衣服器具及ヒ病室舩室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條　虎列刺流行ノ際ニハ井泉河流水道及ヒ厠圊芥溜下水溝渠等總テ病毒萠生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

罰則

第二十四條　人民此規則ニ違背シクルトキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

〔丑〕徵兵令ノ事

徵兵令別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但徵兵令ニ関スル從前ノ布告達及ヒ指令ハ渾テ廢止トス

徵兵令

第一章　徵兵編制

サルヘカラス今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

告諭

第一條　徴兵ハ全國ノ男子ヲ徴集シ以テ兵役ニ充ル者ナリ今陸軍ヲ大別シテ四ト爲ス常備軍豫備軍後備軍國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ歩騎砲二等ノ兵種ニ區別ス

但海軍徴兵ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　常備軍ハ男子二十歳ニ至ル者ヲ各軍管下ノ國郡ヨリ徴集シ其當籤者ヲ以テ之ヲ編制シ三ケ年ノ役ニ服セシメ所管鎮臺ニ備フル者ナリ

第一項　殊ニ技藝ニ熟フル者平時ハ服役未ク終ラズト雖モ詮議ノ上假ニ歸鄉ヲ許スヘシ

第二項　强壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シキ者ハ在營六ケ月ニシテ近衛兵ニ拔擢シ更ニ三ケ年ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫備軍ニ編入シ二ケ年六ケ月ノ後後備軍ニ編入ス

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第三項　上下士官ト爲ンヿヲ志願スル者ハ撿査格例ニ照シ士官學校又ハ教導團ニ入ラシム

第四項　技藝ニ熟シ且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第三條　輜重輸卒看病卒並ニ職工ハ各其志願者ヲ徴募スト雖モ若シ不足スルトキハ壯丁ノ身幹定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セサル者或ハ合格ノ者ト雖モ各自ノ職業ニ依リ便宜ヲ以テ諸兵ト同シク徴集シ諸役ニ服セシムルヿアルヘシ

我朝上古ノ制海内擧テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ工タリ又商賈タリ固ヨ

リ後世ノ双刀ヲ帯ビ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス

抑神武天皇珍彦ヲ以テ鳥城ノ國造トナセシヨリ爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵糧終ニ武門ノ手ニ墜チ國ハ封建ノ勢ヲ為シ人ハ兵農ノ別ヲ為ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊

第一項　輜重輸卒トシテ徴集スル者ハ六ヶ月間常備軍役ニ服セシメ役終レハ豫備軍ニ編入シ五ヶ年六ヶ月ノ後更ニ後備軍ニ編入ス

第二項　看病卒並ニ職工トシテ徴集スル者ハ服役諸兵ト異ナルヿナシ

第四條　常備軍在營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類共官給タルヘシ

第五條　豫備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ三ヶ年ノ役ニ服セシメ常ニ家居シテ産業ヲ營マシム而シテ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リテハ直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充實シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ從軍セシムル者ナリ故ニ毎歳一度屯營ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第六條　後備軍ハ豫備軍三ヶ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ四ヶ年ノ役ニ服セシメ豫備軍ニ次テ之ヲ召集スル者ナリ故ニ平時ニ於テハ毎歳一度便宜ノ地ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第七條　兵役期限已ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期限ヲ延フルヿアルヘシ

第八條　國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ全國大舉ノ役アルニ當リ時機ニ從ヒ隊伍ニ編制シ以テ守衛ニ充ル者ナリ

## 第四章

第二十七條　左ニ掲ル者ハ終身兵役ヲ除ク

勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歳ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脫スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシノントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農合一ニスル基トリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニ非ス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカル

第一項　廢疾又ハ不具等ニシテ陸軍醫官檢査規則ニ照シ兵役ニ堪エヘカラサル徵候アル者

第二項　徵役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第二十八條　左ニ揭ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第一項　戶主

但徵兵年齡以前ニ分家シ又ハ新ニ分家シタル女戶主ニ入婿シ或ハ絕家ヲ再興シ及ヒ年齡五十歲未滿ノ者隱居シ養子又ハ相續人ニシテ其跡ヲ續キタル戶主ハ此限ニ非ス

第二項　獨子嗣子獨孫承祖ノ孫

但姊妹ノ有無ヲ問ハス

第三項　年齡五十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歲未滿ノ者ノ養子本家ノ故ヲ以テ已ムヲ得サル者ヲ除クトシ又ハ絕家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戶主ニ入婿シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス

第四項　年齡五十歲以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子嗣子或ハ相續人

但隱居後別家シテ時ニ定メタル嗣子或ハ相續人ハ此限ニ非ス

第五項　年齡五十歲未滿ト雖モ廢疾又ハ不具等ニシ

ヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固コリ心力ヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報ス

産業ヲ營ムヿ能ハサル者ノ嗣子承祖ノ孫及ヒ養子(嗣子或ハ相續人)

第六項　官吏(判任以上)及ヒ教導職試補以上並ニ戶長

第七項　府縣會ノ議長副議長及ヒ議員

第八項　公立學校教員及ヒ文部省所轄並ニ其他省使ニ屬スル官立學校教員

第二十九條　左ニ掲クル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第一項　年齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫但徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歲未滿ノ者ノ養子(本家ノ故ヲ以テ已ムヲ得サル者ヲ除ク)トシ又ハ絕家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戶主ニ入婿シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫、此限ニ非ス

第二項　陸海軍生徒並ニ海軍兵器局及ヒ造船所定雇職工

第三項　陸海軍常備在役中死沒又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷痍ヲ受ケ退隱セシ者ノ兄或ハ弟一人但豫備軍又ハ後備軍服役中公務ニ起因シタル疾病死沒モ亦此例ニ準ス

第四項　醫術開業免狀ヲ所持スル者

第五項　公立使府縣ノ設立ニ係ル以下公立ト稱スル者之ニ同シ師範學校ニ於テ卒業ノ者

第六項　公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ卒業ノ

ルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ

兵備アレハ則チ人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然リ而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ

者

第七項　文部省所轄官立學校及ヒ其他省使ニ屬スル官立學校ニ於テ卒業ノ者

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第八項　外國ニ留學シテ二ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持スル者

第九項　海員試驗免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機関手ノ免狀ヲ所持スル者

第十項　海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火夫ノ業ヲ取リタルヿヲ證明スル者

第三十條　左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徴集ヲ猶豫スヘシ

第一項　海軍兵員ト爲ランヿヲ志願スル者

第二項　兄弟同時ニ徴兵ニ當ル者偶數ハ其半數奇數ハ其寡數(例ヘハ三人ハ一人五人ハ二人他皆之ニ倣フ)

第三項　陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ弟一人

第四項　陸海軍生徒ノ兄或ハ弟一人

但本條第二項乃至第四項ノ場合ニ於テ其兄或ハ弟ノ中一人不合格ナル片ハ此例ニアラス

第五項　父及ヒ兄或ハ父ナクシテ兄失踪又ハ癈疾不具等ニテ産業ヲ營ムヿ能ハス本人ヲ要セサレハ一家ノ生計ヲ失フ者

第六項　文部省所轄並ニ其他省使ニ屬スル官立學校

備ヘ全國四民男児二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ

郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徴兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキモノ也

及ヒ公立師範學校ニ於テ修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七項　公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第八項　學術修業又ハ商用等ニテ外國ヘ寄留スル者

第九項　身幹未タ定尺ニ滿タス又ハ疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ仍ホ未タ勞役ニ堪ユルヿ能ハサル者

第十項　刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第三十一條　官省院使府縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖ヒ餘人ヲ以テ代フヘカラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ大政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フヘシ

但諸省院使府縣雇入外國人ニ附屬シ官費ヲ以テ技藝傳習中ノ者亦本條ニ準スヘシ

第三十二條　第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ當ル者並ニ第二十九條第一項第二項第四項第九項第三十條ニ當ル者常備年期ノ第三年檢査時限ニ至ル迄ニ其稱ヲ罷メタル者ハ更ニ徵集ニ應セシムルモノトス

第三十三條　第二十八條第四項第六項第八項第二十九條第四項乃至第十項及ヒ第三十條第六項第七項ニ當ル者ト雖ヒ第六十一條ニ示シタル徵兵各自届出期限ヲ過キ即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ免役又ハ猶豫ノ限ニ非ス

第三十四條　第三十條ニ當リ一ケ年間ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘキ者及ヒ第四十一條第四十二條第五十六條但書

○

三太政官ノ職制章程ヲ改定スル

勅旨

六年五月二日太政官ノ職制章程ヲ更定ニ太政官ヲ分テ正院左院右院ト爲ス正院中大臣參議内史外史ヲ置キ更ニ式

部察ヲ管ス其之ヲ更定スルノ勅旨ニ曰明治四年辛未七月制定スル所ノ官省ノ位置職員ハ權限各其序ヲ得ルト雖モ當今ノ時勢現務上ニ於テ或ハ其弊ナキ能ハス故ニ太政官ノ職

ニ當リ翌年廻シニスヘキ者次年ニ至リ猶該條ニ當ルトキハ又之ヲ猶豫若クハ翌年廻シニスヘシ而シテ終ニ常備年期ノ第三年撿査時限ニ至リ猶該條ニ當ルトキハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第三十五條　常備年期間第二十八條第一項乃至第六項第八項並ニ第二十九條第一項第二項第四項第九項第三十條第三十一條第四十一條第四十二條第五十六條ノ但書ニ交互該當スルモノハ第三十四條ノ例ニ準ス

但第三年ノ撿査時限ニ於テ第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ該ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第三十六條　平時免役ニ屬シ第四十九條及ヒ第五十一條但書ニ當ル者ハ第一豫備徴兵ト爲シ第二十九條第三

制章程ヲ潤飾ス百官夫レ之ヲ奉承セヨ

○

㊀改定律例ヲ頒スルノ勅書

六年六月十三日改定律例ヲ頒布シ新律綱領ノ闕ヲ補ヒ苛ヲ改メ寛ニ付カシム其

十四條ニ當ル者ハ第二豫備徴兵ト成シ各年齡三十歲迄ハ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尚兵員ヲ要スル時ハ其順序ニ從ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ輜重運輸ノ役ニ供スルヿアルヘシ

㊁褒賞條例ノ事

褒賞條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉　勅旨布告候事

別紙

褒賞條例

第一條　凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者孝子順孫節婦義僕ノ類又ハ公衆ノ利益ヲ興シ

上諭ニ曰
朕曩ニ司法ニ勅シ國家ノ成憲ニ原キ各國ノ定律ヲ酌ミ改定律令ヲ修撰セシム今ヤ編纂成ヲ告ク
朕乃チ内閣諸臣ト辯論裁定シ之ヲ頒行セシム爾臣僚其レ之ヲ遵守セヨ

成績著明ナル者疏河築隄修路墾田ノ業或ハ貧院学校設立ノ類ヲ云ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

緑綬褒章

右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條　奇特ノ實行アリト雖褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルアルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條　已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同樣ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條　褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ没收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セヌレタル者ニハ之ヲ授與セス

褒章ノ圖略ス

佩用式

一　褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勲章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

本邦現行法令掲要卷上終

追加

賣藥印紙稅規則　明治十五年十月廿七日　第五拾壹号

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

第一條　賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一　定價壹錢迄　印稅壹厘
一　仝　三錢迄　仝　三厘
一　仝　拾錢迄　仝　壹錢
一　仝　貳錢迄　仝　貳厘
一　仝　五錢迄　仝　五厘

以上總テ五錢毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條　印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘　淡黑色　貳厘　青色　三厘　黃色　五厘　茶褐色
壹錢　赭色　貳錢　綠色　三錢　濃青色　四錢　橙黃色
五錢　紫色　拾錢　深紅色

第三條　印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條　賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

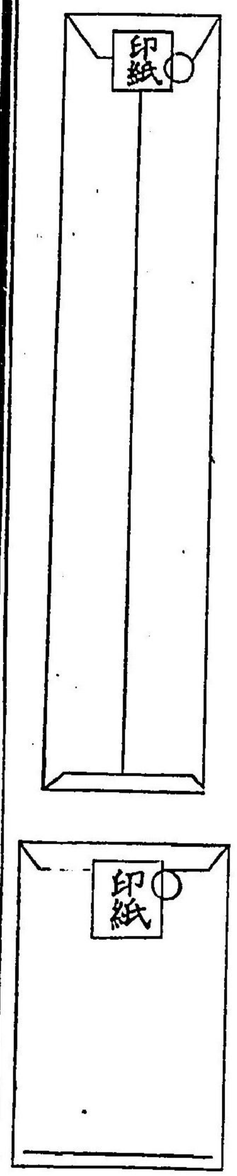
第五條　營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

印紙貼用雛形



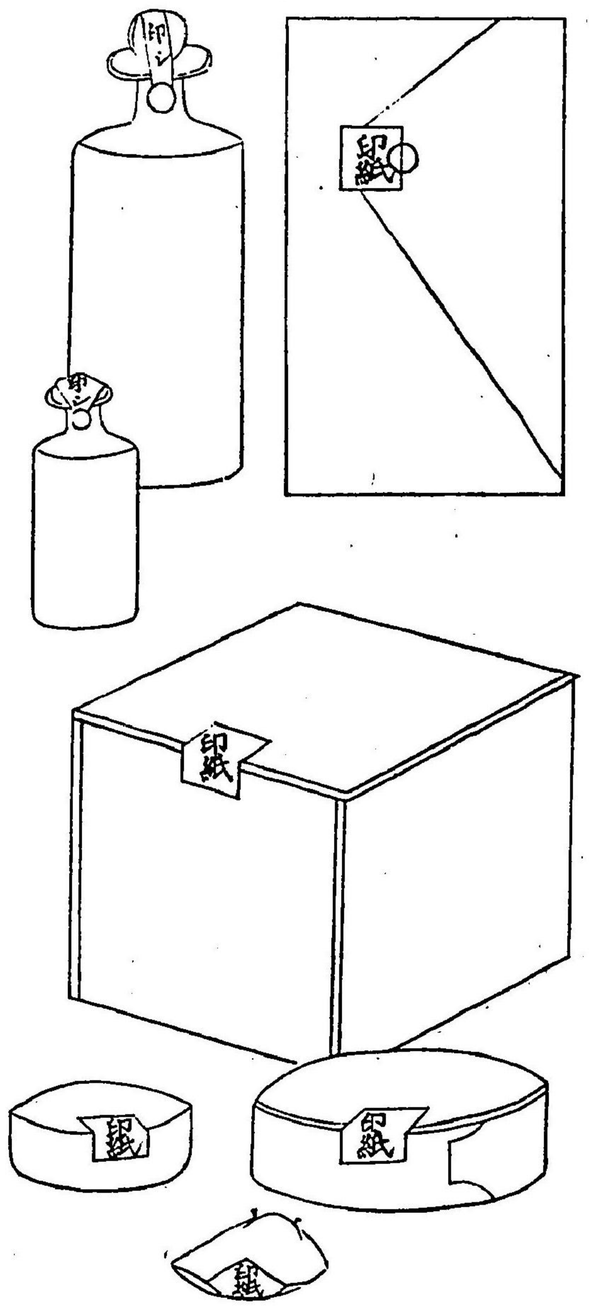



印紙類賣捌手續　明治十五年十二月二十日第二十七号

印紙類賣捌手續別紙ノ通相定明治十六年一月一日ヨリ施行ス

但從前賣捌免許ヲ受ケタル者ハ當分ノ内是迄ノ通心得ヘシ

右布達候事



第一條　印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍退隱令巡査看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ

但賣捌ノ出願者少クシテ需用人ニ支障ヲ生スル地方ニ於テハ當從前ノ手續ヲ以テ許可スヘシ

第二條　印紙類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ其旨地方廳ニ願出テ賣捌所看板ヲ受クヘシ

第三條　此手續ニ依リ賣捌クヘキ印紙類左ノ如シ

一證券印紙界紙　一煙草印紙　一訴訟用罫紙　一賣藥印紙

第四條　印紙類代金ハ其下渡ヲ乞フ時三分ノ一ヲ納メ其餘ハ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期　二月二十八日限　第二期　五月三十一日限

第三期　八月三十一日限　第四期　十一月三十日限



第五條　賣捌手數料ハ賣捌代金高十分ノ一ヲ支給スヘシ

第六條　賣捌人ハ保證人ヲ立テ第四條ノ期限ニ從ヒ印紙類代金ヲ納ムルハ勿論印紙類ヲ亡失又ハ損傷スルモ該代金ハ辨納スヘキ旨ヲ記載シタル證書ヲ作リ保証人連署ノ上之ヲ地方廳ニ差出スヘシ

但避ク可カラサル事變ニ遭遇シタル者ハ事狀ヲ具シテ處分ヲ乞フヘシ

第七條　賣捌人恩典ノ定期盡キタル時又ハ其停止ヲ受ケタル時又ハ廢業シタル時ハ第四條ノ期限ニ關セス其賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌代金ヲ完納スヘシ

但賣捌所看板ハ其節之ヲ返納スヘシ

第八條　印紙類ノ損傷汚染シタルモノアル時ハ其代價百分ノ五

ノ金額ヲ添ヘテ返納ヲ許スコトアルヘシ

## 烟草税則

明治十五年十二月廿七日第六十三号

明治八年十月第百五拾号布告烟草税則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年二月第十四号布告第一項ハ廢止ス

### 第一章　烟草營業

第一條　煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人　煙草仲買人　煙草小賣人

第二條　刻烟草又ハ巻烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條　未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ヘ賣渡シ及製造煙草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ヘ賣渡ス者ヲ煙草仲買人トス

第四條　製造煙草ヲ自用者ヘ賣捌ク者ヲ煙草小賣人トス

### 第二章　營業鑑札

第五條　煙草營業者ハ管轄廳ヘ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條　煙草營業者自已又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ賣出鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯ス可シ

第七條　煙草營業者ハ鑑札ヲ受クル時左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

| | | |
|---|---|---|
| 煙草營業鑑札料 | 一枚ニ付 | 金貳拾錢 |
| 煙草仕入鑑札料 | 一枚ニ付 | 金拾錢 |
| 煙草出賣鑑札料 | 一枚ニ付 | 金拾錢 |

第八條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代稱改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ通鑑札料ヲ納ムヽ可シ

第九條　營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條　鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

## 第三章　營業稅

第十一條　煙草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ムヘシ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ムヽ可シ

| | | |
|---|---|---|
| 煙草製造營業稅 | 一ヶ年 | 金拾五圓 |
| 煙草仲買營業稅 | 一ヶ年 | 金拾五圓 |
| 煙草小賣營業稅 | 一ヶ年 | 金五圓 |

第十二條　烟艸營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ管轄廳ニ納ムヽ可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受候節其半年分ノ營業稅ヲ納ムヽ可シ

## 第四章　印稅

第十三條　煙草製造人刻煙草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱結ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フヽ可シ

| 量目 | 印稅（卸賣定價百匁ニ付廿五錢未滿分） | 同（卸賣定價百匁ニ付廿五錢以上卷錢未滿分） | 同（卸賣定價百匁ニ付五拾錢以上ノ分） |
|---|---|---|---|
| 五匁 | 貳厘 | 三厘 | 四厘 |
| 拾匁 | 四厘 | 六厘 | 八厘 |
| 拾五匁 | 六厘 | 九厘 | 壹錢貳厘 |
| 廿匁 | 八厘 | 壹錢貳厘 | 壹錢六厘 |
| 三拾匁 | 壹錢貳厘 | 壹錢八厘 | 貳錢四厘 |

五拾匁　貳錢　三錢　四錢
百匁　四錢　六錢　八錢

第十四條　刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及ヒ印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第十五條　刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第十六條　刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルヿヲ得ス

第十七條　外國ヘ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戾稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第十八條　烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 印紙 | 黃色 | 同四厘 | 同淡赭色 | 壹枚 | 三厘 |
| 帶印紙 | 黑色 | 壹枚 貳厘 | 同赭色 | 同六厘 | |
| 同 | 蒲黃色 | 同八厘 | 同淡青色 | 同九厘 | |
| 同 | 茶褐色 | 同壹錢貳厘 | 同淡紅色 | 同壹錢六厘 | |
| 同 | 桔梗色 | 同壹錢八厘 | 同橙黃色 | 同貳錢 | |
| 同 | 老綠色 | 同貳錢四厘 | 同濃青色 | 同三錢 | |
| 同 | 黃綠色 | 同四錢 | 同紫色 | 同六錢 | |
| 同 | 赤色 | 同八錢 | | | |

第十九條　烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條　印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

## 第五章　雑則

第二十一條　刻烟草ハ毎個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記スヘシ

第二十二條　烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條　烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ製造ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人　煙草製造帳
煙草仲買人　煙草買入帳
煙草小賣人　煙草賣渡帳

第二十四條　烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ノ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帯シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條　印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條　烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條　烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草買入高賣捌高製造高並ニ印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條　印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高並買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條　烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戸外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條　印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡ス
コトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章　檢査

第三十二條　煙草營業者ノ帳簿及其所持ノ煙草ハ主任官隨時之
ヲ檢査ス可シ

第三十三條　檢査官吏ハ檢査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求
ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章　罰則

第三十四條　營業鑑札ヲ受スシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋
脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙草ヲ沒收シ之ヲ
賣拂キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十五條　煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ
所持シ又ハ賣渡タル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ
其賣渡代價ヲ追徵ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條　帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與
ヘタル者又ハ屆書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓
以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ
買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓
受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條　第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ
違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ
五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ
沒收シ之ヲ賣拂キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十九條　管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收スヽ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　未製造ノ煙草ヲ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第十三條ノ煙草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第四十二條　鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　煙草自用者ニシテ未製造ノ煙草又ハ無印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條　第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條　烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅規則　明治十五年十二月廿七日第六十一号

明治十三年九月第四拾号布告酒造稅則左ノ通改正追加ス

但第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨリ施行ス

第三條

免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許税　酒造場一箇所ニ付　金三拾圓

酒類造石税

一類一石ニ付　金四圓

二類一石ニ付　金五圓

三類一石ニ付　金六圓

第四條　二項　三項

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒　百石

濁酒

一類（清酒濁酒ヲ除ク）　拾石　二類三類　五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條

酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第十條　二項

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尚存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ

届出且製成ノ上檢査ヲ受クヘシ

第二十二條

他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條

檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

檢査既濟ノ酒類ヘ檢査未濟ノ酒類ヲ混加スルヲ許サス

第三十一條

酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條

酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十四條

第十四條又ハ第二十條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條

第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ没收ス

第三十六條

第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ没收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ没收ス

第三十七條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條

酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ）ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スル

カ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條　第一條第二條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ没收スヘシ

第九條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

醪麹營業税規則　明治十五年十二月廿七日第六十二号

明治十三年九月第四十一号布告醪麹營業税則左ノ通追加ス

第五條　二項

醪麹及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十二條

醪麹營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醪麹受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醪麹ヲ除ク製造スルヲ許サス

第十三條

第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ没收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條

醪麹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

## 爲替手形約束手形條例　明治十五年十二月十一日　第五十七号

爲替手形約束手形條例別冊ノ通制定ス

### 第一章　爲替手形

#### 第一節　爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條　爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條　爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一　金額
二　振出ノ年月日及ヒ場所
三　支拂ノ期限及ヒ場所
四　支拂人ノ氏名
五　受取人ノ氏名
六　受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條　爲替手形ハ一ノ爲替ニ付同文ノ手形二通又ハ三通ヲ振出スヿヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番号ヲ付シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヿヲ記載スヘシ

第四條　爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

#### 第二節　支拂期限

第五條　爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一　一覽拂　　二　定期拂　　三　一覽後定期拂

第六條　一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條　定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條　一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ記算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條　一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示スヘシ

第十條　定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

## 第三節　爲替資金

第十一條　振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條　振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヿヲ得

## 第四節　裏書





第十三條　爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヿヲ得

第十四條　裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條　裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條　手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヿヲ得

## 第五節　保證

第十七條　振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保證セシムルヿヲ得

保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載ス可シ

第十八條　振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條　保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節　引受

第二十條　定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヿヲ得

第二十一條　支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印スヘシ

第二十二條　支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スヿヲ得ス

第二十三條　支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケサル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受クヘシ

第二十四條　所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲換金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立テシムルヿヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヿヲ得

第二十五條　振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免ルヽ者トス

第七節　支拂

第二十六條　手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支

拂フ可シ

第二十七條　手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日式ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ

第二十八條　手形所持人支拂金ヲ受取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條　一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條　支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サヽル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條　支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知スヘシ

第八節　拒ミ證書

第三十二條　支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條　支拂人拒ミ證書ヲ作ルヿヲ肯セス又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戶長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

第三十四條　支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルヿヲ得

第九節　償還ノ要求

第三十五條　手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書並ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヿヲ得

第三十六條　第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヿヲ得

第三十七條　振出人ハ爲替資還ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヿヲ得ス

第三十八條　要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引替ニ非レハ償金ヲ爲スニ及ハス

第三十九條　第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ記算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルヿヲ得

第十節　紛失

第四十條　手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止ノシム可シ

第四十一條　手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルヿヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヿヲ得

第四十二條　手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ眞正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルヿヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヿヲ得

## 第二章　約束手形

第四十三條　約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フヿヲ可キ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條　約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條　爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用スヿ可シ

## 第三章　通則

第四十六條　第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スル者ハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條　第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルヿヲ得ス

本邦現行法令掲要追加終

明治十五年十月五日版權免許
同　十六年二月　出版

定價六十錢

編輯人　山口縣士族　阪根正夫　牛込區東五軒町四拾壹番地寄留

出版人　東京府平民　江嶋喜兵衛　日本橋區本石町貳丁目九番地



博文館藏

## 諸國

尾州名古屋本町六丁目　片野東四郎
尾州名古屋本町十二丁目　梶田勘助
勢州四日市南町　伊藤善太郎
美濃岐阜米屋町　三浦源助
美濃大垣俵町　平野利兵衛
遠州濱松紺屋町　齋藤源三郎
駿州靜岡呉服町五丁目　佐藤俊平
駿州沼津淺間町　擁萬堂壽三郎
信州長野仁王門前　西澤喜太郎
信州小諸荒町　相場七左衛門
下總野田五丁目　茂水林藏
下總國佐原　朝野利兵衛

# 書肆

常陸水戸泉町　松信善之助
磐城中村宇多川　志賀茂卿
陸前仙臺國分町　伊勢安右衛門
陸中一ノ關　及川兵治郎
陸奥青森博勞町　柿崎忠兵衛
羽前山形六日町　市村五郎兵衛
岩代福島通五町目　齋藤彦太郎
武州　深谷驛　小野脩三
仝　所　酒井省吾
越後長岡　中村作平
越後高田呉服町　水多勝太郎
越後四ッ谷濱村　佐藤友吉

# 三府書肆

西京寺町通四條　田中治兵衛
仝　寺町通佛光寺上ル　川勝德治郎
大坂北久太郎町四町目　柳原喜兵衛
仝　南久宝寺町四町目　前川善兵衛
仝　北久宝寺町四町目　前川源七郎
仝　備後町四町目　吉岡平助
東京芝三嶋町　山中市兵衛
仝　通り二町目　稲田佐兵衛
仝　壹町目　北畠茂兵衛
仝　浅草茅町二丁目　北澤伊八
仝　通り旅籠町　東生龜治郎
仝　本石町二丁目　江島喜兵衛